

「古里を受け継いでいく一助に」と話す学生たち。オリジナルの
カレンダーも製作した(南国市の稲生ふれあい館)



住民から収集 高知大生展示

稲生の歴史写真でたどる

【香長】南国市稲生の歴史をたどる「稲生写真館」が25、29日、地元の稲生ふれあい館で開かれる。高知大学地域協働学部稲生実習班の3年生が、戸別訪問などを通して住民から写真200枚を集めた。最盛期の石灰採掘場や農作業の様子など、明治期から現代までの地域の営みを紹介する。
(横田幸成)

南国市 明治以降の200枚 あすから

学生は小林瑞希さん(21)、伊藤圭那さん(21)らで住民に写真提供を呼び掛けたが、反応は

(21)、湯山喜子さん(21)、森山恵さん(21)の4人。2年時に参加した地域の祭りや行事を一目に見える形を残したい」と提案し、集落活動センター「チー△稲生」とともに企画を練った。
昨夏以降、チラシなど現在はない駄菓子屋や豆腐屋、棺屋などを振り返る「変化し続ける

「夏でも雪が降る」と題したパネルでは、地域を支えた石灰産業の今昔を紹介。家の中や田んぼにも石灰の粉が降っていたため、稲生全体は季節問わず雪に覆われているようだったという」などと説明している。

4人は「今も当時のまま残る建物や、採掘で削られる前の山の写真は衝撃的だった。歴史を後世に紡ぎ、古里の未来を考えるきっかけにしてほしい」などと話し、来年1月に写真集の発行も計画している。
展示は稲生ふれあい文化祭の一環。入場無料。午前9時～午後4時(最終日は午後2時)。